

## 1. 教育の責任

担当科目:基礎ゼミナール(1年前期必修科目2単位)、生化学入門(1年前期選択科目)、解剖生理学(1年前期選択科目)、解剖生理学(1~4年前期選択科目)、運動生理学(1年後期選択科目)、生化学(2年後期選択科目)、生活文化専門演習(3年生通年必修科目4単位)、生化学・解剖生理学実験(2年前期選択科目)、食品衛生学実験(3年後期選択科目)、人体の科学(1~2年後期選択必修科目)

## 2. 理念

私の教育理念は、「学生の視野を広げる」と「学生の自ら考え、行動する力を養う」ことである。生命科学系科目の教育を通して生命のしくみや生命活動の意味を理解させ、教養を有した社会に貢献できる人材として学生が卒業していくことを目標にしている。

## 3. 方法

講義形式の授業では、パワーポイントのスライドや補足資料を使用し、知識の定着を図った。苦手意識を抱く学生が多い解剖生理学や生化学では、多くの図表やイラストを使用し、丁寧に解説することを心がけた。解剖生理学、運動生理学、生化学は学ぶべき内容(知識量)が他の科目とは比較にならないほど多いので、再説明や情報提供などを行うことで、落第しないように心がけた。

基礎ゼミナールでは、レポート作成の基礎から丁寧に解説・指導し、全ての学生が1つのテーマに関して簡単なレポートを完成させられるように心がけた。

生活文化専門演習では、卒業論文のテーマ選択を目標に、文献の検索方法や読み方を訓練し、卒業研究を完成させるために必要な要素を学ばせると同時に、身の回りには多くの興味深い課題が存在していることを気づけるように誘導した。

実験科目では、実験レポートや課題を課して、実験内容の理解、及び、探索力や文章力の向上を目指した。

## 4. 成果

ほとんどの学生は真摯に講義や実験に取り組み、単位を取得した。Teamsを活用した講義資料の配布や質問への対応を行うことで、学生の学ぶ意欲を保てたのではないかと考えている。しかし、実験レポートに関しては、実験内容の理解促進や客観的にわかりやくまとめる力を養うことを目的としていたが、提出することが目的となっている学生が見受けられたので、今後の課題である。

## 5. 今後の目標

担当する生化学、解剖生理学、運動生理学は、学ばなければならない知識が膨大な科目であるために、知識定着の改善が今後の課題である。小テストの頻度を増やすことで対応することを考えている。また、実験レポートに関しては、模範レポートを配布する・優秀レポートを表彰するなどの工夫を施すことで、実験レポートの質の向上を目指したい。

## 6. エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

① 授業で提出された課題、レポート（非公開）

② テキスト

生化学若い研究者の会（2021）これだけ！生化学第2版 秀和システム

北口哲也 みんなの生命科学（2016）化学同人

志村二三夫（2021）栄養科学イラストレイテッド演習版 解剖生理学ノート 羊土社

浅見直美 川中健太郎（2021）栄養科学イラストレイテッド 運動生理学 羊土社

藪田勝（2020）栄養科学イラストレイテッド演習版 生化学ノート 羊土社

桑田てるみ（編）（2013）学生のレポート・論文作成トレーニング 実教出版

## ティーチング・ポートフォリオ

生活文化学科 高橋裕子

(記入日：2022年9月12日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

江戸のエコ学 (2~4年,共通教育選択,前期2単位)、折り紙コーディネート演習 (2~4年,共通教育選拓,前期2単位)、コミュニケーション能力基礎演習 (2年,専門教育科目必修,前期2単位)、生活アート論 (2~4年,専門教育選択必修,前期2単位)、ライフ商品開発 (2~4年,専門教育選択必修,前期2単位)、被服実習Ⅱ (立体) (3年,専門教育選択必修,前期1単位)、複数教員科目：医療事務総論 (1~3年,専門教育選択,前期2単位)、医療秘書実務実習演習 (事前・事後指導) (3~4年,専門教育選択,通年1単位)

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

教育理念・目標は、日常生活の中から物事の起源や先人たちの知恵などを理解し、現代の身の回りにある資源や環境に関わる問題点を多角的に視る姿勢を身につけることである。さらに、問題解決に結びつく工夫や自然との共生社会の仕組みを知り、SDGsな社会になるため各自ができることを養うことである。また、実践を通して日本の文化を知ること、コミュニケーションスキルをアップさせ、生活に反映させる。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

対面授業で行った。

江戸のエコ学、折り紙コーディネート演習、生活アート論では、授業開始までに教科書入手が間に合わなかったため、教科書が届くまで関連した資料を用意し印刷して配布した。

江戸のエコ学では、江戸時代と現代の生活を比較しながら、衣・食・住・暮らしのそれぞれについてどこがエコなのか各自確認して、現代にも応用できることを検討させた。江戸時代の1日のタイムスケジュールに各自のタイムスケジュールを記入させて、生活面の変化を確認しプレゼンを実践した。

折り紙コーディネート演習では、特殊用紙を使用するため、毎回折り図と共に配布した。手元がよく分かるように書画カメラをプロジェクターに接続してホワイトボードに映し、細かい部分を確認できるようにした。また、教科書の中に、冠婚葬祭時のマナーやしきたりの頁があるので、現物を見せながら説明し、生活の中にある日本の文化について解説を試みた。

生活アート論では、衣・食・住のアート効果について、画像で具体的に解説した後、各自で身の回りの事象に関心を持ってもらい、アート効果のプレゼン

を実践した。また、衣の根源と言われるフェルトの成立ちについて説明後、実際に羊毛をフェルト化することで具体的な理解を試みた。

ライフ商品開発では、身の回りにある商品が、どの様に企画されて自分たちの手元に届くのか、具体的にプロセスを解説した。分かりやすくするため、コンビニエンスストアで扱っている商品や若者の中で人気のショップの商品を例とした。その後、各自商品を決めて、コンセプト、対象者等を含めたプロセスのプレゼンを実践した。

被服実習Ⅱ（立体）は、教職課程（家庭科）の必修のため、ミシンやアイロン、縫い方等の復習をした。実際に各自は採寸、製図、布裁断、仮縫い、補正等の内容を一人一人に合わせて行うことができたため、自分自身の体型の特徴を理解することができた。最終的に着装してもらい、デザインコンセプト等を含めたプレゼンを実践した。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

昨年は、新型コロナウイルスの影響でリモート授業であったが、その分 **teams** の使い方等を学生も教員も勉強することができた。対面授業でも事前に見ておいてもらいたい資料やカラーの資料を **teams** にアップすることで教員サイドでは印刷する手間が省け、学生サイドではダウンロード資料なので、拡大することもでき工夫して見る事が可能となった。今年もコロナ禍には変わらないため、図書館等に行き参考文献を借りることが不安で課題をこなすのが大変だとの声があった。そのため、配布資料や教科書、公官庁や関連団体の **HP** の閲覧等で課題ができるように内容を工夫した。その代わり、普段何気なく使っている物や見ている物に関心を持ち、理由や仕組みがあることを理解する様に指示したことで、生活の中で反映できるようになったと思われる。

江戸のエコ学では、現在 **SDGs** の観点から環境への関心が高まっていることを受けて、衣・食・住と暮らしについて江戸時代と現在の生活を比較して具体的に物事を考えてもらう様にした。技術やエネルギー等の開発・発展で簡単には比較することはできない部分があるが、工夫することで少しでもエコ生活につながる事を発案してもらった。その結果、自分自身や家庭での生活を振り返り、無駄なことやもったいないことを見つけるに到ったそうである。

折り紙コーディネート演習では、対面授業ではあったが、手元がよく見える様に書画カメラをプロジェクターに接続し、教室のホワイトボードに映し、学生の反応を確認しながら時折拡大した。学生からは折り図を見ながら、時折アップで見ることができたのでとても分かり易かったという感想が多かった。使用する紙も、入手困難な和紙を使用することで、先人が受け継いできた手法で制作した和紙を手に取り、日本が誇る和紙文化を再発見できたようである。

現在ではあまり体験することのない冠婚葬祭時のマナーやしきたりについては、江戸の文化と共に日本の伝統的なおもてなしの実践教育が出来たと示唆する。

被服実習Ⅱ（立体）は、大きなテーブルやミシン等が自宅にない学生がほとんどで、中高家庭科の授業でミシンを使用していない学生もいた。そのため本来小学校高学年～中高の家庭科の授業で習っているべき内容の振り返りが不可欠と感じた。このことは、授業回数15回のうち2回は振り返りになってしまうため、実習内容の吟味が必要である。

タブレット端末については、予め資料を手元にダウンロードして予習に使用できる、授業中に資料を拡大縮小して使用できる、チャット機能で随時教員に質問等ができる等、機能的かつ便利である。しかし、授業中、タブレットを見ている学生が授業に関係の無いサイトを見ていることもあり、区別が付きにくいという問題がある。また、タブレットに頼りすぎで、ノートやファイルに必要なことをメモすることをしなくなり、書いて覚える行動が皆無になり結果、覚えてない・聞いてない等が確認された。

タブレット端末を使用するとしても、forms や小テストと称する紙媒体を使用して振り返りをする必要性を感じた。

## 5 今後の目標（これからどうするか）

コロナ禍の先行きが不透明で、不測の事態（災害や感染症等）がいつどの様に起こるか分からない状況で、PC やインターネット環境が不可欠となり、AI や IOT 等が普及し電力や他のエネルギー消費量が増大する生活になると予想される。今後益々、共生社会の仕組みを知り、SDGs な社会になるため各自ができる力を養うことが大切になる。そこで、生活文化学科の学生だけではなく他学科の学生にも、衣・食・住の学びを通して人間の持っている五感を使い、災害等のように様々なエネルギーを使用できないときにも先人たちの知恵や工夫を活用して生きる力を身に付けて欲しい。しかし、リモート授業のみでは、学生の様子（体調や問題点等）や変化に気づいてあげられず、孤立してしまう学生もいるのではないかと思う。特に、教員側からは、1人暮らしの学生が、コロナ禍の不安な中で相談出来る環境にあるかどうか分からないため、リモート授業の利点と対面授業の利点をミックスしたハイブリッド型授業の必要性を大いに感じた。そして、学生の不安材料を少しでも減らせるような対策とコミュニケーション力を維持しつつ、新しい生活様式に対応し大学生活が充実したものになるような授業を検討したい。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1 『江戸の暮らし 衣・食・住』 諏訪書房
- 2 宮田章司『江戸のくらしとリサイクル』 絵本塾出版

- 3 『大江戸くらし図鑑』 洋泉社 Mook
- 4 山本博文監修「大人の教養図鑑『江戸入門』くらしと仕組みの基礎知識」、河出書房新書
- 5 小林一夫『喜ばれる素敵な折り紙』 池田書店
- 6 NPO 法人国際おりがみ協会監修、小林一夫『折り紙 ORIGAMI』(株)文溪堂
- 7 『日本のかたち』 平凡社
- 8 田中秀穂監修『テキスタイル「表現と技法」』 武蔵野美術大学出版局
- 9 『Casa BRUTUS』 MAGAZINE HOUSE
- 10 まるやまはるみ『誌上パターン塾・Vol.3 パンツ編』 文化出版局
- 11 まるやまはるみ『誌上パターン塾・Vol.4 ワンピース編』 文化出版局

## ティーチング・ポートフォリオ

学科：生活文化 氏名：高山啓子

(記入日：2022年 9月 26日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

基礎ゼミナール (必修 2 単位)、プレゼミナール (必修 2 単位)、観光概論 (必修 2 単位)、景観論 (選択必修 2 単位)、観光社会学 (選択必修 2 単位)、観光文化実践 II (選択必修 2 単位)、フィールドワーク法 (選択必修 2 単位)、観光文化入門演習 (必修 2 単位)、観光文化専門演習(1)(2) (必修各 2 単位)、卒業研究 (必修 6 単位)、卒業研究演習 (必修 4 単位)、総合講座(2) (選択必修 2 単位)、社会学 (選択必修 2 単位)、統計と社会 (選択 2 単位)、社会学概論 (選択 2 単位)、社会学概論 (生活文化学科必修 2 単位)、メディア研究 III (大学院選択必修 2 単位)、ジェンダー社会論基礎論(2) (大学院選択必修 2 単位)、ジェンダー社会論特論(2) (大学院選択必修 2 単位)、ジェンダー社会論演習(2) (大学院選択必修 2 単位)、女性学専門研究演習 I (大学院) など

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

社会のさまざまな現象 (観光を含む) に対して学生自身が関心を持ち、それぞれの問いを立て、分析できるような機会をつくること、またそれらを協同して行えるようになることを目指している。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

講義形式の授業では、学生がその回のテーマに関する課題 (シラバス事前学習で提示したもの他) について自分の考えや意見をまとめたものを提出するという方法をとっている。また授業内で複数の問いについて考えを述べてもらっている。

基礎ゼミナール、プレゼミナール、観光文化入門演習、観光文化専門演習、卒業研究演習では、文献・資料の検索方法や報告レジュメの作成の仕方を指導したうえで、文献や資料に基づく研究報告を行なってもらい、ディスカッションによる相互の意見交換を行い、最終的にレポート・論文を作成してもらう。

観光文化実践では研究対象のフィールドワークを複数回実施し、そのための事前の研究報告、事後研究報告、フィールドワークの成果を用いて観光ガイドとモデルルートの作成を課題としている。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

各科目において、比較的学生の自主的な関心を高め、自分の考えを持たせることができた。学生によって、取り組みにばらつきはある。

講義形式の授業においても、Teams のチャット機能やアンケート機能を使用して意見を述べてもらい、相互にさまざまな意見を聞き、知識や考え方の幅を広げることができている。

観光文化実践においては 2~3 名ずつのグループで協同作業による事前研究、事後研究を実施することができた。

5 今後の目標（これからどうするか）

自主的な取り組みに消極的な学生にそれを促す方法、また学生が積極的にディスカッションに参加する方法を検討したい。より意欲のある学生に対する、別の課題などを検討したい。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

授業で提出された課題、レポート（非公開）



## ティーチング・ポートフォリオ

永嶋久美子

(記入日：2022 年 8 月 29 日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

調理学実験 (2 年前期選択必修科目 1 単位), 給食管理実習 (1) (3 年前期選択必修科目 2 単位), 給食管理実習 (2) (3・4 年選択必修科目 1 単位), 栄養教育実習演習 (事前事後指導) (3 年通年選択必修科目 1 単位) など

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

私の教育理念・目標は、科学的根拠に基づいた食、栄養、健康、調理を理解し、その問題解決に向けた行動をPDCA サイクルによって主体的に取り組む力を身に付けることである。また、これらの力を身に付けた実践力のある栄養士を目指している。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

学習を進めるにあたり、各科目では一般的な事例をあげ科学的根拠の学習、基準、技術の習得を進めている。また、授業後の学習の振り返りのためのワークシートを作成し、課題とした。提出された課題はコメントを入れ、質問などは次の授業で解説するなどのフィードバックをした。調理学実験は対面授業であったが、各回の実験のレジュメ、レポートフォーマット、図表フォーマットを Teams で配信した。レポートは Teams の課題にて提出し、ルーブリックを活用して評価し、コメントと共に次回授業までにフィードバックした。栄養教育実習演習 (事前事後指導) では身近な事例および給食施設の事例を例に挙げ、ワークシートを活用しながら学習を進めた。実際の現場の状況を学ぶため映像資料などを活用した。給食管理実習 (1) は対面授業で実施した。授業に使用する資料は Teams のファイルで共有した。また、実習においては、コロナウィルス感染予防のための衛生手順を実践し、試食においても密を防ぐため、すべて弁当形式で実施した。試食の評価等は Forms を活用し、PDCA サイクルにより実習を改善しながら実施した。給食管理実習 (2) は遠隔授業を実施した。3 年次後期に実施した学外実習の振り替りおよび様々な実習施設の特徴について学ぶことを目的とした。Teams により授業を進めたが、グループワーク、発表、アンケート調査などを Teams, Forms を活用して実施した。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

すべての科目において対面授業、遠隔授業にかかわらず、学生相互が自主的に学び合い、授業時間外に学修時間を設けていることが確認できた (エビデンス 1)。調理学実験、給食管理実習 (1)、給食管理実習 (2) のレポートおよび報告書などの作成では専用の教材を使用した (エビデンス 2)。調理学実験および給食管理実習 (1)、(2) では参考資料およびワークシートを配布し、事前・事後学修を促す

とともに実践的な理解につながった（エビデンス 3）。給食管理実習（1）・（2）では現場における実践状況を理解するため映像教材を活用したところ、基礎的学習内容を実践的な視野でとらえることにつながった（エビデンス 4）。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

調理学実験および給食管理実習（1）などで学生同士が授業時間外に検討、議論し、資料収集、データ分析などを行う機会を増やす（ラーニング・コモンズ）。また、事前・事後学修を継続的に進められるよう、資料収集及び分析などの具体的提示を行う。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1 リアクションペーパー（非公開）
- 2 テキスト 大羽和子他（編著）（2003）調理科学実験 学建書院  
岡本裕子他（編著）（2019）給食経営管理テキスト 学建書院  
文部科学省（2011）調理場における衛生管理&調理技術マニュアル  
学建書院
- 3 参考資料およびワークシートなどの配付（非公開）
- 4 映像資料 金田雅代（総監修）（2014）学校給食管理実践ガイド 丸善 等

## ティーチング・ポートフォリオ

永嶋久美子

(記入日：2023 年 2 月 20 日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

調理学実験 (2 年前期選択必修科目 1 単位), 給食管理実習 (1) (3 年前期選択必修科目 2 単位), 給食管理実習 (2) (3・4 年選択必修科目 1 単位), 栄養教育実習演習 (事前事後指導) (3 年通年選択必修科目 1 単位) など

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

私の教育理念・目標は、科学的根拠に基づいた食、栄養、健康、調理を理解し、その問題解決に向けた行動をPDCA サイクルによって主体的に取り組む力を身に付けることである。また、これらの力を身に付けた実践力のある栄養士、栄養教諭の養成を目指している。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

学習を進めるにあたり、各科目では一般的な事例をあげ科学的根拠の学習、基準、技術の習得を進めている。また、授業後の学習の振り返りのためのワークシートを作成し、課題とした。提出された課題はコメントを入れ、質問などは次の授業で解説するなどのフィードバックをした。調理学実験は対面授業であったが、各回の実験のレジュメ、レポートフォーマット、図表フォーマットを Teams で配信した。レポートは Teams の課題にて提出し、ループリックを活用して評価し、コメントと共に次回授業までにフィードバックした。栄養教育実習演習 (事前事後指導) では身近な事例および給食施設の事例を例に挙げ、ワークシートを活用しながら学習を進めた。実際の現場の状況を学ぶため映像資料などを活用した。給食管理実習 (1) は対面授業で実施した。授業に使用する資料は Teams のファイルで共有した。また、実習においては、コロナウィルス感染予防のための衛生手順を実践し、試食においても密を防ぐため、すべて弁当形式で実施した。試食の評価等は Forms を活用し、PDCA サイクルにより実習を改善しながら実施した。給食管理実習 (2) は対面授業を実施した。3 年次後期に実施した学外実習の振り返りとともに様々な実習施設の給食の特徴について学ぶことを目的とした。グループワーク、発表、アンケート調査などを Teams, Forms を活用して実施した。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

すべての科目において、学生相互が自主的に学び合い、授業時間外に学修時間を設けていることが確認できた (エビデンス 1)。調理学実験、給食管理実習 (1)、給食管理実習 (2) のレポートおよび報告書などの作成では専用の教材を使用した (エビデンス 2)。調理学実験および給食管理実習 (1)、(2) では参考資料およびワークシートを配布し、事前・事後学修を促すとともに実践的な理解につながっ

た（エビデンス 3）。給食管理実習（1）・（2）では現場における実践状況を理解するため映像教材を活用したところ、基礎的学習内容を実践的な視野でとらえることにつながった（エビデンス 4）。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

調理学実験および給食管理実習（1）などで学生同士が授業時間外に検討、議論し、資料収集、データ分析などを行う機会を増やす（ラーニング・コモンズ）。また、事前・事後学修を継続的に進められるよう、資料収集及び分析などの具体的提示を行う。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1 リアクションペーパー（非公開）
- 2 テキスト 大羽和子他（編著）（2003）調理科学実験 学建書院  
岡本裕子他（編著）（2019）給食経営管理テキスト 学建書院  
文部科学省（2011）調理場における衛生管理&調理技術マニュアル  
学建書院
- 3 参考資料およびワークシートなどの配付（非公開）
- 4 映像資料 金田雅代（総監修）（2014）学校給食管理実践ガイド 丸善 等

## ティーチング・ポートフォリオ

今井久美子

(記入日：2022 年 9 月 21 日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

前期は栄養士の専門教育科目である栄養指導論 (1) (2 年選択必須科目、2 単位)、臨床栄養学、(2 年選択必須科目、2 単位)、公衆栄養学 (3 年選択必修科目、2 単位) 栄養指導基礎実習 (3 年選択必修科目、1 単位)、スポーツ栄養相談 (3 年選択科目、2 単位) を担当した。

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

私の教育理念・目標は、社会学士としての栄養士育成である。栄養士の役割の一つに、健康維持・増進および生活習慣病予防と重症化予防、疾病の治癒と重症化予防に対する栄養基準を求め、基準に従った食の提供がある。よって、対象者とその周りの社会環境などを理解し、科学的根拠に基づき客観的な情報の解析、栄養問題点を見出し、主体的に問題解決ができる基礎的な知識と実践的な能力、併せ人が対象であることを忘れない心を身に着けた学生の育成に努めている。また、食を介した自己の健康管理の必要性和重要性の気付きも目標としている。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

前期科目実践の工夫を記す。今年度はすべて対面式で行った。担当科目は、すべて教科書の購入を義務付け、必要に応じて資料及び課題プリントを配付した。

公衆栄養学 (3 年) は、資料及び課題プリント (白黒) を配布、併せ Teams にて資料 (カラー)、課題の一部は Teams の課題機能にて割り当てた。2 年生は、iPad の活用ができることから栄養指導論 (1) と臨床栄養学は、資料 (カラー) はすべて Teams にアップロード、課題は、プリントまたは Teams の課題機能を活用した。スポーツ栄養相談は、他学科の履修者があったため、スポーツ栄養学の基礎知識、栄養相談の計画と技術について説明後、実践的な模擬相談を実施した。講義は、パワーポイントと板書を用い、教科書に従い授業を進め、質疑応答ができるよう心がけた。振り返りや重要な内容は課題にて知識の定着を行いたくアクティブ・ラーニングを活用した。提出された課題はコメントを付け返却した。講義は、定期試験を実施し、課題と授業態度と併せ成績を評価した。栄養指導基礎実習は、自己の基礎体温・体重測定、タイムスタディ・食事記録の情報収集と解析、問題点と改善立案について実施した。学生の質問には、速やかに丁寧に回答するように心がけた。レポートは、コメントを付け返却した。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

対面式は、リモートに比べ、授業の進み具合はゆっくりだが、学生の理解の程度、学習への取り組み分かりやすいということ、学生の質問などに即、直接対応できるという利点を改めて感じた。また、対面式は、孤立感を回避する学習であることが、多くの学生から読み取れた。しかしながら、授業評価アンケートからも学力格差は、更に広がっているように思われたことから、振り返り学習を重点においた。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

リモート授業は、機能的に授業を進めることができ、対面授業は、学生に寄り添うことができると感じた。ハイブリッド型で無いことは、教員として準備の一貫性を持つことができた。Teams を活用できることは良いと感じている。

ICT 教の進歩は、教科書も資料もデジタル化され、教員の印刷する手間と森林破壊の削減という喜びがある。授業も配信形式になれば、学生も自分の時間に併せ受講し、利便性の高い教育法だと思う。しかし一方で、教育とは？どのような形式が良いのか、私は、ますます迷路に入っている。実習をバーチャルで行い、アバターが受講すれば、人対人の関わりがどうなるのか心配なる。iPad が導入されている 2 年生の授業中の様子は、iPad を使いこなしている、授業以外のサイトを見ている、全く開かない学生など様々な姿が見受けられた。最近、学生の質問は、疑問や解決法より「この答えあっていますか？」という〇×を訊ねるものが増えている。主体的な学びで満足感を味わってこそ、教育の意義があると思う。よって、ICT 教育をどのように活用するかが今後の目標である。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1) 担当者作成プリント（非公開）
- 2) テキスト：逸見幾代、今井久美子他、第二版、知る！わかる！身につく！！  
公衆栄養学（2020）、同文社
- 3) テキスト：相川りゑ子、會田久仁子、今井久美子他（2020）、N ブックス  
三訂 栄養指導論、建帛社
- 4) テキスト：渡邊早苗、本間和宏、佐藤智英編著、若菜宜明、今井久美子他  
（2021）、N ブックス 臨床栄養学概論 [第 2 版]、建帛社
- 5) テキスト：渡邊早苗、山田和彦、今井久美子他（2020）、栄養士養成課程  
のための栄養学実験実習・演習 基礎と応用「日本人の食事摂取基準  
（2020 年版）」準拠 [第 4 版]、建帛社

## ティーチング・ポートフォリオ

大坂 佳保里

(記入日： 2022年9月22日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

食生活論(1年前期選択必修2単位)、食品加工学(3年前期選択必修2単位)、  
フードスペシャリスト論(3年前期選択2単位)

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

多様な社会環境に対応できる社会力と豊かな感性を有する栄養士や栄養教諭、家庭科教諭の養成、フードスペシャリスト等の食関連資格の取得、栄養士としての知識とフードスペシャリストとしての知識を融合させた加工食品の商品開発を通し、食を多角的に捉える力を育成する。

学生は多様な知識の修得により、社会や家庭生活において活躍・応用が可能な実践力を身につけることができる。その結果として、心身の健康を保持・増進し、豊かな生活創造者として社会や家庭に貢献できるようになることが教育目標である。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

作成した講義資料や補足資料の配布により、授業の理解度や学習意欲の向上を図った。特にカラー画像の資料を提供することで、理解度が深まるようにした。また課題や演習問題の提出を求め、復習と同時に授業の習熟度を学生自身が確認にすることで学習意欲の向上を促した。また再説明や関連資料の情報提供などを行うことで、学修が順当に進むように指導した。自身の食生活調査では、調査紙や集計表の完成、それを基にしたレポート作成の方法を指導した。

授業は対面で行ったが、資料は Teams を活用して最新のデータやカラー資料を送付することにより、学生の理解が深まるようにした。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

授業の復習は課題や演習問題をすることが中心で、予習はテキストを読むことが中心であったが、一定の学修時間が確保されていることが確認できた (エビデンス1)。食生活調査では実施感想の発表やレポートを通し、栄養士を目指す自覚が醸成しつつあることが確認された (エビデンス2)。

## 5 今後の目標（これからどうするか）

遠隔授業の影響もあり、参考資料や文献検索は比較的容易に取得することはできるが情報リテラシーの不足も認められる。また、テキストの図表を読むことが不得意な学生も見受けられることから、入学後の早い段階で指導する必要がある。遠隔授業が長引いたことによる弊害として、特に対面によるコミュニケーション能力の不足が見受けられるので、その点を留意した指導も必要である。さらに、ここ数年同様の傾向が認められる食に関する専門知識を教科ごとに垂直方向に捉え、関連科目との横断的な知識の共有が不足している事例も散見されている。前期で終了した科目内容を踏まえ、関連科目のテキストを授業に活用することで、横断的に専門知識を集積して理解を深め、理解力を向上させるとともに応用力を身に着けられるように指導したい。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1 コメントペーパー（非公開）
- 2 調査票（非公開）、レポート（非公開）
- 3 参考資料 共著（2014）地域食材大百科



# ティーチング・ポートフォリオ

齋藤 美重子

(記入日：2022年9月1日)

## 1. 教育の責任

担当科目：社会生活入門 (1) (1年前期必修科目 2単位)、社会生活入門 (2) (1年後期必修科目 2単位)、消費生活論 (2～4年前期選択必修科目 2単位)、家庭科教育法 I～IV (2～4年前期後期選択必修科目 2単位)、コミュニケーション能力基礎演習 (2年前期必修科目)、生活文化専門演習 (3年通年必修科目 4単位) ワーク・ライフ論 (2～4年後期選択科目 2単位)、ワーク・ルール論 (2～4年前期選択必修科目 2単位)、サービス産業論 (2～4年後期選択必修科目 2単位)、家庭科教育法 (2～4年後期選択必修科目 2単位)、家庭 (1～4年後期選択必修科目 2単位)

## 2. 理念

私の教育理念・目標は、学生が生活者の視点を持ち、生活と世界・自然とを総合的に捉え、かつ生活課題を科学的に分析して、人と社会・環境との関係性を探究する力をつけることである。現代社会を多面的に探究し本質を熟考することをおして、人間関係形成能力、論理的思考力、課題発見・判断能力を培い、自分らしい最善の生活を営み、将来にわたり学び続ける態度を育成するとともに、社会に貢献できる人材を育成することである。

## 3. 方法

社会生活入門、フードビジネス入門、消費生活論、家庭科教育法では、ICTを活用し各自の課題探究と、知識構成型ジグソー法、ブレインストーミングやKJ法を用いたグループ学習により多様な意見を吸収させ、発表、再び個人で考察する時間を設けるという往還の中で深い学びを促す。また、資料提供と課題探究学習による反転授業を行う。さらに、パワーポイントやDVDなど視聴覚教材により学習の理解促進を図る。

生活文化専門演習では、文献資料の担当部分についてレジュメを作成・発表させ、理解を深め現状分析を促す。コロナ禍のため、認定NPO法人APLAとのオンライン会議により南北問題など社会構造的課題についてディスカッションし、フェアトレード商品普及策を考案した。認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやいとNPO法人ごはんプラスによる路上生活者への食材配りの参与観察を行い、貧困の現状についてディスカッションを行い、オーセンティックな学びを得た。

コミュニケーション能力基礎演習では、学生同士の対話や主体性を促進させるために、ICTを活用したプレゼンテーションを行う。家庭科教育法では、学習指導要領を詳細に検討し、学習指導案の作成と学生相互の評価を行う。知識と実習を融合させて知識の定着を図ったり、ICTを活用した授業を行うなど、よりよい教育方法について授業案を作成することをおして探究させる。模擬授業の実践、学生相互評価により振り返って、再度修正した模擬授業案を作成させることで学びを深める。

## 4. 成果

すべての科目において、学生が真摯に課題に取り組み、授業時間外に学修時間を設けていることがわかった(エビデンス①、②)。生活文化専門演習では文献資料の理解を深め、さらに現状把握と今後の課題について探究できた(エビデンス①)。家庭科教育法、コミュニケーション能力基礎演習では、学生同士が主体的に学び合ったことが確認できた(エビデンス①③)。

## 5. 今後の目標

今年度もコロナ禍で、オーセンティックな学びをもたらす専門家や実践家を招聘することも異世代交流もできなかったため、来年度以降は再開させ人間関係形成能力を高めたい。また、フィールドワークはZOOMを使用したオンライン会議により代用したが、コロナ収束後は再開させ、現状分析を促したい。

ラーニングコモンズを活用し、学生同士が授業時間外にも対話をして、資料収集やレポートを検討する機会を増やす。また、リアクションペーパーをさらに活用し、再考を促して生涯をとおして学び続けるよう、主体的に学ぶ態度を育成したい。

## 6. エビデンスとなるもの

①リアクションペーパー(非公開)

②レポート(非公開)

③生活文化学科ホームページ(公開)

<https://www.kgwu.ac.jp/2022/07/25/%e5%ae%b6%e5%ba%ad%e7%a7%91%e3%81%ae%e6%95%99%e8%82%b2%e5%ae%9f%e7%bf%92%e3%82%92%e7%b5%82%e3%81%88%e3%80%81%e6%95%99%e5%93%a1%e6%8e%a1%e7%94%a8%e4%b8%80%e6%ac%a1%e8%a9%a6%e9%a8%93%e3%83%bb%e4%ba%8c/>

④テキスト：佐藤真弓・齋藤美重子編著(2020)『自然と社会と心の人間学』一藝社

プレゼンテーション研究会(2015)『学生のためのプレゼンテーション・トレーニング』実教出版

文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 家庭編 平成29年7月』東洋館出版社

文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 技術・家庭編 平成29年7月』開隆堂出版

文部科学省(2019)『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 家庭編 平成30年7月』教育図書

開隆堂(2022)『家庭総合—明日の生活を築く』『技術・家庭 家庭分野』『わたしたちの家庭科』

⑤参考資料及びワークシートなどの配布(非公開)

⑥映像資料：特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター(PARC)「どこに行ってる、私のお金？」

特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター(PARC)「スマホの真実」

特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター(PARC)「プラスチックごみ」

コレクティブハウスかんかん森 居住者組合「森の風」「つながって、暮らそう！  
～10年目の、コレクティブハウスかんかん森～」

Andrew Morgan 監督「THE TRUE COST」,

「awareness test」,

「The future of work」

東京学芸大学次世代教育研究推進機構「21CoDOMoS」

[www.u-gakugei.ac.jp/~jisedai/news/21codomos.html](http://www.u-gakugei.ac.jp/~jisedai/news/21codomos.html)

## ティーチング・ポートフォリオ

佐久間美穂

(記入日：2022年 9月 24日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

- ① 幼児教育学科：基礎ゼミナール (1年前期必修2単位)、社会福祉 (1年前期選択必修科目2単位)、子ども家庭福祉 (1年後期選択必修科目2単位)、社会的養護Ⅰ (2年前期選択必修科目2単位)、子ども家庭支援論 (3年前期選択必修科目2単位)、社会的養護Ⅱ (3年後期選択必修科目2単位)、保育実習演習Ⅱ事前・事後指導 (3年通年選択必修科目2単位)、保育実習Ⅱ (3年生通年選択必修2単位) 等
- ② 生活文化学科：社会福祉概論 (2年前期必修科目2単位)、社会福祉概論 (医療秘書実務士科目2単位)、高齢社会論 (2年後期選択必修科目2単位)

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

保育士、栄養士、医療秘書実務士の資格取得、中学家庭・高校家庭科教員として必要となる社会福祉関連の専門的知識・技術の習得と主体的に適応できる能力の育成を目指す。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

対面授業が再開となったため、基礎的知識の習得とともに学生間のグループワーク、ワーク内容をクラス全体で共有化し、個々にリフレクションを行い、自身の省察を深めるような双方向の授業形態を積極的に取り入れた。

工夫した点は、学生自身で考え、記述する時間を十分に確保すること、終了前の個々のリフレクション、次回授業内でのフィードバックを行うことにより、学修意欲の維持と成果を実感できるように配慮した。また、大学近隣の我孫子市や松戸市の福祉関係機関を招聘した授業を実施した。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

返却されたワークシートから、学生自身が授業内容の確認と学修の成果を把握することができた (エビデンス①②)。実習関連授業では、自身の実習内容や課題を省察し、全体指導・個別指導を通じて、学生自身が努力すべき内容が確認された (エビデンス③)。

## 5 今後の目標（これからどうするか）

制度の改正が多い福祉の関連法の状況を確認し、最新情報・データを授業内容に反映させる。あわせて、保育士養成課程の新カリキュラムに合わせたワーク等の内容を随時変更・修正する。

iPad が一人一台使用可能となって 2 年目に入り、対面授業内および自宅学習時の効果的な使用方法を考えたい。また、将来の進路先となろう保育や福祉の現場の専門職など、大学での学修や知識が現場でどのように活かされていくのかに関する学生の理解と深化、学生自身の職業選択の一助となるような授業内容としたい。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ①マイクロソフト Teams で提出されたワークシート（非公開）
- ②授業終了時に該当科目での自身の学びを記したペーパー（600 字程度・非公開）
- ③幼児教育学科の学修ポートフォリオ

## ティーチング・ポートフォリオ

学科：生活文化 氏名：佐々木唯

(記入日：2022年9月23日)

### 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

家庭科教員養成のため、住居学（2年生選択必修2単位）、家庭電気機械及び情報（3年生選択2単位）、生活デザイン論（選択必修2単位）、住環境ユニバーサルデザイン論（3年生選択2単位）を担当するほか、カラーコーディネート(1)(選択2単位)、基礎ゼミナール(1年生必修2単位)、情報リテラシー(1年生必修2単位)、生活文化専門演習(3年生必修2単位)、情報処理(1)(共通科目選択2単位)、情報処理(5)(共通科目選択2単位)、まちづくり論(選択2単位)。

### 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

社会に貢献する女性として主体的に判断できる力を養成するとともに、栄養士の育成を目指している学科の理念のもと、生活全般に関わる教養を身につけ実践する力の育成を教育の目標としている。現代社会に影響を与える食と健康の問題解決のために応用力と文化的感性を身につけた食育のできる栄養士として、社会的・文化的・自然科学的視野を養い、社会学的思考力向上のための参加型授業を進めている。

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

学び方の多様化に対応して、受動的な学習にとどまらず能動的な学習姿勢を習慣づけるため、講義は対話的に学びを深める場として位置付け、学生自ら考える時間を計画的に設けた。授業への積極性や学術的関心を持続させるため、ワークシートを制作して、考え方のスキルを高めるとともに、自らの成長を視覚化すること、それを受講者が相互に知覚することによって、学ぶ意欲と達成感を導き自信を持たせるための工夫をしている。創造性を養うためにアイデアを展開したり、様々な考え方をまとめたり、PBLによる主体的な学びを導入して、学生が各自のテーマを分担してWebサイトを作成する課題を取り入れた。

初年次教育では、主体的な学習を促すため、学生に身近なテーマを示し、例えば「健康と環境」に関わる問題の発見や課題解決の実践に取り組んでいる。iPad

と Teams を活用して事前学習を伝え、予習を前提にした授業を進めることにより授業外学習時間の確保を示唆して、授業への積極性および自主性を促している。さらに、Forms を通して学生の理解度を丁寧に確かめ、Web サイトを更新して事後学習を明示することによって主体的に復習が行えるよう配慮した。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

予習を前提にした授業を進めることにより、授業外学習時間の増加が確認でき、授業への積極性・自主性を高めることができた。自らの成長を視覚化すること、それを受講者が相互に知覚することによって、学ぶ意欲と達成感を導き学習意欲を持たせることにつながった。自発的に色彩検定やカラーコーディネートの資格取得を目指す学生が増えた。Web サイトに授業内容の補足や要点をまとめ、QR コードやリンクを示して操作性を高めることが、教材に対する閲覧につながり、学習の自主性および事後学習の促しに関係するよう考えられる。なお、授業アンケートによると、事前・事後学習の時間が確保され主体性が高まっている。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

対面授業では直接的な学生への質疑応答、ノートチェック・フィードバックにより学習の継続性、持続力を保つ配慮が必要である。学生の理解度を確かめ知識の定着や補足をするため、学生の気付きに応じて復習を行えるよう教材製作、Web サイトの充実をはかりたい。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

テキスト：住まいのデザイン，朝倉書店，2015

新家庭機械・電気 第5版，医歯薬出版株式会社

インテリア・カラー・ブック，日本色研株式会社

学生のレポート・論文作成トレーニング改訂版，実教出版

参考書：『住まいの百科事典』丸善出版，2021

SDGs 時代の課題解決法 インクルーシブデザイン，2019

Web <https://kgwuacjp.sharepoint.com/sites/住居学>，家庭電気機械，生活デザイン，情報リテラシー，基礎ゼミナール，情報処理，生活の数学（非公開）

# ティーチング・ポートフォリオ

佐藤 真弓

(記入日： 2022年 9月 27日)

## 1 教育の責任

家庭経営学（専門教育科目必修2単位）、家族関係学（専門教育科目必修2単位）、家庭経済学（専門教育科目選択必修2単位）、現代の社会（共通教育科目選択必修2単位）、女性と現代社会（専門教育科目必修2単位）、資源と環境（専門教育科目選択必修2単位）など

## 2 教育の理念

私の教育理念・目標は、現代社会における様々な諸相についてその本質的要因を探り考察し、それらを自分自身の生活課題としてとらえようとする主体性を養うこと、よりよい生活、人生を送るために、それら生活課題に対してどのような解決法があるかを考え、自分らしいライフデザインを構想し実践できる態度を身につけることを目的としている。

## 3 教育の方法（実践の工夫）

家庭経営学、家族関係学、家庭経済学、現代の社会、資源と環境では、授業資料としてワークシート（word,excel）やpdf資料をteamsのファイルに事前配信した。ワークシートとともにパワーポイントのスライド、写真や動画を使用しながら講義し、毎授業後に「forms」による小課題レポートを作成させ知識の定着を図った。次の授業では前回の復習を兼ねて小課題レポートの講評を行った。

特に家庭経済学、資源と環境では内容に関連した書籍について輪読・ディスカッションを行うことにより基礎理論の徹底および社会事象への関連づけを図った。また家庭経営学ではiPadを用いて自身の居住地の地勢、特徴等を検索させ、それをもとにプレゼン、ディスカッションを行ったり、資源と環境では身近な生活資源を取り上げ文献資料をもとにプレゼン資料を作成しディスカッションを行った。

また、女性と現代社会では自ら興味関心のある社会の課題について図書館等で文献検索を行いレポートを作成、それを発表しディスカッションを行うことにより、学生が自らの生活課題としてとらえ、主体的な解決法を探ることができるようにした。

毎授業後に小課題レポート、もしくは「forms」機能による小テストを実施し知識の定着を図った。「forms」機能を利用して、回答を提出後すぐに学生が自分の点数、回答に対する教員からのコメントがみえ、復習に役立てられるようにした。「課題」機能からの提出には一人ひとりフィードバックのコメントを付した。授業では前回授業の復習として小課題レポート、小テストの講評も行った。

## 4 成果（結果と評価）

ワークシート、パワーポイントのスライド、YouTube動画を使用して授業解説を行えたことにより、学生が授業内容により興味をもって集中して取り組むことができた。特に家庭経営学、資源と環境の演習形式の授業では、幅広い視野からの課題設定や主体的な課題解決態度や意欲



の育成につなげることができたと考える。毎授業ごとの小課題レポートの提出や「forms」機能を用いた小テストの実施により知識の定着、生活課題の新たな発見などが確認できた。

女性と現代社会では teams や対面の際の指導により、基礎ゼミ時のレポート作成方法を復習し、文献研究の結果をプレゼンさせることにより実践応用力、表現力などを養うことができた。発表後のグループディスカッションでは、課題の把握、問題意識の共有、問題解決について主体的に取り組むことができたと考える。またそれぞれの課題について当事者意識をもちながら自身の生活課題としてとらえることができるようになったと考える。

## 5 今後の目標

受講生が多い場合でもグループワークやディスカッションなど演習形式をさらに積極的に取り入れていきたい。iPad など機器も積極的に活用していきたい。資料や文献を使用した事前事後学修をより具体的に促す。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ・ワークシート、レポート（小課題、事前事後課題等）、forms、パワーポイントスライド
- ・期末レポート
- ・佐藤真弓『生活と家族』一藝社（2016）
- ・佐藤真弓・齋藤美重子編『自然と社会と心の人間学』一藝社（2020）
- ・（一社）日本家政学会家政教育部会編『家庭生活の支援』建帛社(2014)
- ・藤原辰史『縁食論』ミシマ社（2020）
- ・藤原辰史『食べるとはどういうことか』農文協（2019）
- ・村上陽一郎編『コロナ後の世界に生きる』岩波新書（2020）
- ・DVD 劇団トランス・プロジェクト「桃源の門にて」
- ・web サイト（授業資料として）

消費者庁 HP <https://www.caa.go.jp/>

厚生労働省 HP <https://www.mhlw.go.jp/index.html>

令和3年人口動態統計

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei21/index.html>

農林水産省 HP <https://www.maff.go.jp/>

経済産業省 HP <https://www.meti.go.jp/>

外務省 HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/>

- ・YouTube 動画（課題資料として）

ベアテ FC2 Video <https://www.youtube.com/watch?v=KhA7FNwSdB0&t=192s>

NHK スペシャル「人類誕生」1～8

[https://www.youtube.com/playlist?list=PLcynJ47QaWNvciCH-NvZL9DQW\\_J1Mlazi](https://www.youtube.com/playlist?list=PLcynJ47QaWNvciCH-NvZL9DQW_J1Mlazi)

(記入日：2023年2月24日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

前期：ライフステージ栄養学 (2年選択必修科目 2単位)、基礎調理学実習(1) (1年選択必修科目 1単位)、応用調理学実習(1) (2年専門教育科目)、生活文化専門演習 (3年必修科目 4単位)、卒業研究演習 (4年必修科目 4単位)

後期：基礎栄養学 (1年必修科目 2単位)、基礎調理学実習(2) (1年選択必修科目 1単位)、食品学実験 (1年選択必修科目 1単位)、生活文化専門演習 (3年必修科目 4単位)、卒業研究演習 (4年必修科目 4単位)

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

私の教育理念・目標は、学生が「食べる」というあまりにも身近で日常的に繰り返している行動について、生化学的視点で生命現象を理解し、自らの健やかな生活と生命を尊重する力を養うとともに、栄養士・家庭科教諭として専門的な知識を持って、どのようにして周りの人々の健康へ寄与できるのか主体的に考え行動する素量を身につけ、社会へ送り出すことである。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

ライフステージ栄養学では反転授業を取り入れた。teamsより事前学修課題 (Formsを使用) (エビデンス1) を配布し、授業開始までに提出させ、事前に教科書に目を通して予習を促すようにした。また、管理栄養士国家試験問題も取り入れ、卒業後に受験を目指す学生にも対応できるものとした。基礎栄養学では多くの図を用い、人体の仕組みや構造、生体内でどのような化学変化が起こっているのか、さらには、その化学変化が生命活動や代謝にどのような役割を果たしているのかについて、一番身近な自分自身の体として理解できるよう促した。また、食品学や調理学で学んだ知識と栄養学の知識が結びつくように、時間的に可能な限り他の科目で学んだ内容も振り返り、自らが日頃生活している「食べる」という行為に栄養学で得た知識を落とし込めるような説明を心がけた。基礎調理実習や応用調理学実習、食品学実験においては、実験実習の実施、実験データを原理などと照らし合わせて考察し、論理的に表現することができるよう、レポートの指導を繰り返し行い、事前事後の学習を促した。最終授業後に授業の感想を発表する機会を設け、アンケート (エビデンス2) を行い、授業の目的が達成されたか確認した。生活文化専門演習や卒業研究演習においては、グループワークや論文の輪読を取り入れ、学生同士がディスカッションする機会を多く設けることで、より研究内容に興味を持ち自ら学ぶ意欲を持たせるよう促した。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

反転授業を取り入れたライフステージ栄養学では、授業評価アンケート (エビデンス3) において、「教材の利用は効果的でしたか? (91%)」、「授業内容に触発され、もっと勉強したいという気持ちになりましたか? (82%)」、「総合的に判断して、この授業に満足できましたか? (91%)」の設問において、「そう思う、どちらかというと思う」と評価をした割合 (カッコ内%) が昨年度よりも高く、事前に予習をすることで、授業内容の理解が深まったり、課題以外にも自ら勉強したいという気持ちを引き出すことができた。基礎栄養学では、授業評価アンケート (エビデンス3) において「教材の利用は効果的でしたか? (100%)」、「教員は、授業の重要なポイントをはっきりと示しましたか? (100%)」、「授業に対する教員の熱意・真剣さを感じましたか? (100%)」、「この授業は、シラバスの記載内容をカバーしていましたか? (100%)」、「この授業の進む速さか、あなたにとって適切でしたか? (100%)」、「授業は学生の理解度に沿って行われましたか? (100%)」、「授業内容に触発され、もっと勉強したいという気持ちになりましたか? (100%)」、「総合的に判断して、この授業に満足できましたか? (100%)」の設問において、「そう思う、どちらかというと思う」と評価をした割合 (カッコ内%) が高く、化学的な内容が多く敬遠されがちな栄養学が、昨年度よりもより身近な知識として学生に届いていたことが示された。基礎調理学実習では、「調理が苦手で授業にも行きたくないとはじめは思ったが、今では自宅でも作ってみたいと思うようになり、成長を感じた」、「一週間の中でこの授業が楽しみに生活していた」、「班員同士声を掛け合って、

実習毎に成長できた」といった感想が見られ、学生が意欲的に授業に参加して成長したことがわかった。応用調理学実習では、1年次の基礎調理学実習で学んだ事が土台となり、チームワークの取り方や調理の技術も上達し、また、自ら実習に向けた作業工程メモを持参して授業に臨む学生の姿も見られた。食品学実験では授業後のアンケート（エビデンス 2）より基本的な化学実験を修得し、実験データを論理的に表現できるようになった事が示された。生活文化専門演習や卒業研究演習においては、研究内容に興味を持ち、自ら多くの資料や論文を検索して、科学的に考察する学生が多くみられた。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

専門分野の知識の修得については、より理解しやすい資料を提示し、自らの生活に落とし込んだ説明を心がけ、学生に事前事後の学修を促すことで理解できるようにしていく必要がある。2022年度に取り入れた反転授業においてよい結果が得られたので、2023年度は、1年生の基礎科目においても Forms を使用したクイズ形式を用い、先に教科書に目を通すよう促す工夫をし、事前学修に重点を置いた授業形態を取り入れる。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1) 事前学修課題（教科書の内容及び管理栄養士国家試験過去問題）（非公開）
- 2) 最終授業でのアンケート（非公開）
- 3) 授業評価アンケート（非公開）

## ティーチング・ポートフォリオ

生活文化学科 叶内 茜

(記入日：2022年7月27日)

### 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

前期：保育実習演習Ⅲ（事前・事後指導）、子どもの食と栄養 A・B、食と生命（我孫子・目白）、生活文化専門演習、保育・教育実習先巡回訪問指導

後期：保育実習演習Ⅰ（事前・事後指導）、保育学（実習及び家庭看護を含む）、保育実習演習Ⅲ（事前・事後指導）、家庭の健康学、女性学（目白）、総合講座②、生活文化専門演習、保育・教育実習先巡回訪問指導

### 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

私の教育理念・目標として、学生に身につけさせたい3つの力を挙げる。

- (1) 物事について主体的に調べ、発信していく力。
- (2) 多方面にアンテナを巡らせ、正しい情報を選択する力。
- (3) 自身の生活と世の中の状況を結びつけ、生活課題を考えていく力。

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

#### (1) Teams の活用

令和4年度前期は全面対面授業で実施されたが、①欠席者対応、②学生へのフィードバックについては Teams も併用しながら進めた。

①の欠席者対応については、特に100名以上が履修している共通教育科目において、毎回の授業資料（スライド・配布プリント）をすべて Teams 上で共有し、履修者は誰でも自由に閲覧ができるようにした。

②の学生へのフィードバックについては、毎回の授業後に Forms の事後学習課題を設定し、学生たちに授業のふり返りをまとめてもらった。教員は学生のふり返りを受け、次回の授業前までに Forms に学生に向けたコメントを入れたものを web 上で返却した。また、最後に教員への質問や伝えたい内容を記入する項目を設け、記入された質問のうち他の学生も興味がありそうな内容については次回の授業時に匿名で取り上げた。

#### (2) 実践的・体験的な学習の充実

保育士資格取得のための必修科目「子どもの食と栄養」では、例年は簡単な観察のみの実習であったが、今年度は保育現場で行われている活動を想定した調理実習を取り入れた。そのほかの授業においても体験的な活動を取り入れ、対面で授業に参加すること

の意義が感じられるように工夫した。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

##### (1) Teams の活用

欠席者対応として行った Teams 上の授業資料配布は、学生と教員の相互の負担軽減につながった。また、学生の中には自身のふり返しとして授業を欠席していなくてもスライドを閲覧しながら事後学習課題に取り組む者もあり、学生の理解度に応じて自己学習を進めていくことができるというメリットもあった。

Forms を用いた事後学習課題については、授業実施日から間が空かないうちに学生へのフィードバックを返すことができる点や、学生の理解度に応じて次回の授業予告が伝えられる点にメリットが感じられた。毎回の授業の冒頭では 15～20 分間、Forms に寄せられた学生からの質問に答える時間を設けた。回を重ねるごとに質問の数は増えていったが、完全にオンラインであった昨年度と比べると 3 分の 2 程度であった。

##### (2) 実践的・体験的な学習の充実

保育者目線での調理活動は、実習を通しての気づきが多く得られ、学生のふり返しからは保育者としての学びが深まったことが読み取れた。食と生命の授業では、学生の授業評価アンケート結果より、体験的な学習行った回の評価が高いことが読み取れた。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

事後学習課題の中の授業内容のふり返しに関する学生の記述量は、人によって差が大きかった。今後は教員側からふり返りの視点をより詳細に示したり、文字数の基準を設けたりするなど、事後学習の質が向上するような工夫に取り組んでいきたい。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ・川村学園女子大学幼児教育学科公式インスタグラム（一般公開）
- ・Teams の担当授業チーム（学内のみ）
- ・学生のワークシート（学内のみ）
- ・ふり返しシート（非公開）
- ・Forms の記述（非公開）

# ティーチング・ポートフォリオ

生活文化学科 叶内 茜

(記入日：2023年2月21日)

## 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

前期：保育実習演習Ⅲ（事前・事後指導）、子どもの食と栄養 A・B、食と生命（我孫子・目白）、生活文化専門演習、保育・教育実習先巡回訪問指導

後期：保育実習演習Ⅰ（事前・事後指導）、保育学（実習及び家庭看護を含む）、保育実習演習Ⅲ（事前・事後指導）、家庭の健康学、女性学（目白）、総合講座(2)、生活文化専門演習、保育・教育実習先巡回訪問指導

## 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

私の教育理念・目標は、社会学士として幅広い視野を持った家庭科教諭を養成することである。特に、私が専門とする家庭科保育分野では、多様化する社会において「社会全体で子育てを担う」という子育ての社会化意識を学校教育の中で育てていくことが求められている。本学の特色の一つである、社会学士をもった家庭科教諭の養成を行うことは、上記の力を備え、これからの社会を生き抜く力を持った人材の育成につながると考えている。

## 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

### (1) Teams の活用

令和4年度は全面対面授業で実施されたが、①欠席者対応、②毎回の授業における学生へのフィードバック、③提出物の添削（実習園へのお礼状）、については Teams も併用しながら進めた。

①の欠席者対応については、特に100名以上が履修している共通教育科目において、毎回の授業資料（スライド・配布プリント）をすべて Teams 上で共有し、履修者は自由に閲覧ができるようにした。その結果、本キャンパス以外の学生対応も含めた多様な状況の学生への即時の連絡伝達が可能となり、学生の提出物の提出状況も向上した。

②の学生へのフィードバックについては、毎回の授業後に Forms の事後学習課題を設定し、本時の授業のふり返し・翌週の事前学修を行った。教員は学生の提出課題を受け、次回の授業前までに学生に向けたコメントを入れた Forms を web 上で返却した。また、最後に教員への質問や伝えたい内容を記入する項目を設け、記入された質問のうち他の学生も興味がありそうな内容については次回の授業時に匿名で取り上げた。その

結果、授業回を重ねるごとに、学生からの質問が増えていった。

③の提出物の添削については、2月に行われた保育実習Ⅰ（学外実習）後の、施設へのお礼状の添削を Teams のチャット機能を用いて行った。学生が自宅等で作成したお礼状を写真に撮って教員へ送付し、教員は送られてきた画像に直接タッチペンで赤を入れたものをチャットで返却した。実習終了後、早いタイミングで送ることが求められるお礼状について、オンラインでの指導を効果的に活用することができた。

#### (2) 実践的・体験的な学習の充実

昨年度以前のオンライン授業の形式が浸透している世代の受講生であることから、対面授業では学校へ来て授業を受けることの意義を感じられることを意識して、実践的・体験的な内容を取り入れた授業実践を行った。

保育士資格取得のための必修科目「子どもの食と栄養」では、保育現場で行われているクッキング保育の活動を想定した調理実習を取り入れた。実際に調理を行うことで、保育者としての配慮事項を実践的に学ぶことができた。また、ゲストティーチャーとして附属保育園の管理栄養士の先生にご講義いただき、現場の生の声が聞ける機会を大切にした。

家庭科教諭免許状取得のための必修科目「保育学」では、子どもの実態に触れられる機会として、附属保育園および子育て支援センターでの交流活動を行った。

そのほかの授業の中でも、なるべくグループワークや学生が発言する時間を設け、自分の考えを自分の言葉で表現できる機会を設けることを意識している。

### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

#### (1) Teams の活用

欠席者対応として行った Teams 上の授業資料配布は、学生と教員の相互の負担軽減につながった。特に、目白キャンパスの学生とは週に1回しか会えないため、Teams の活用がより効果的であった。また、学生の中には自身のふり返しとして授業を欠席していなくてもスライドを閲覧しながら事後学習課題に取り組む者もあり、学生の理解度に応じて自己学習を進めていくことができるというメリットもあった。

Forms を用いた事後学習課題については、授業実施日から間が空かないうちに学生へのフィードバックを返すことができる点や、学生の理解度に応じて次回の授業予告が伝えられる点にメリットが感じられた。毎回の授業の冒頭では15～20分間、Forms に寄せられた学生からの質問に答える時間を設けた。回を重ねるごとに質問の数は増えていったが、完全にオンラインであった昨年度と比べると3分の2程度であった。

#### (2) 実践的・体験的な学習の充実

保育者目線での調理活動は、実習を通しての気づきが多く得られ、学生のふり返りからは保育者としての学びが深まったことが読み取れた。食と生命の授業では、学生の授業評価アンケート結果より、体験的な学習行った回の評価が特に高いことが読み取れた。

## 5 今後の目標（これからどうするか）

事後学習課題の中の授業内容のふり返りに関する学生の記述量は、人によって差が大きかった。今後は教員側からふり返りの視点をより詳細に示したり、文字数の基準を設けたりするなど、事後学習の質が向上するような工夫に取り組んでいきたい。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ・川村学園女子大学幼児教育学科公式インスタグラム（一般公開）
- ・川村学園女子大学生活文化学科ホームページ（一般公開）
- ・Teams の担当授業チーム（学内のみ）
- ・学生のワークシート（学内のみ）
- ・学生が記述したふり返しシート（非公開）
- ・学生による Forms の記述（非公開）
- ・授業評価アンケート結果（非公開）